会　報
Vol.23　No.2　通巻 132　発行日 2021.6.13.

Der Wind
（風）

湘南日独協会
Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan
事務局：〒251-0025　藤沢市鵠沼石上 1 - 1 - 1
江ノ電第2ビル7F
Tel：0466-26-3028　Fax：0466-27-5091
E-mail:jdgshonan.official@gmail.com　　http : //jdg-shonan.ciao.jp/

日独交流160周年
Jahre Freundschaft
Deutschland – Japan

ご挨拶

湘南日独協会会長　　松野義明

COVID-19の猛威は、変異株の脅威も加わり、依然として、収束の兆しを全く見せておりませんが、皆様お元気でお過ごしのことと思います。ワクチン接種に関しましては、他の国と比べますと、わが国は、何故か、大幅に遅れているものの、このところやっと、実施の兆しが見えて参ったことは喜ばしいことです。また、色々機会を作って、皆様と御一緒にドイツビールで乾杯できる日が一日も早く到来することを心から祈っております。

随　想

数と性とドイツ語

私の高校は、東京の昔の第九中学が戦後まもなく都立北園高校という新しい名前で再出発した新制高校である。なぜか、英語のほかに、第二語学としてフランス語やドイツ語の授業があり、それぞれに専門の先生がおられ、生徒はどちらでも自由に選択受講することができた。私は、躊躇うことなく、ドイツ語を受講した。戦災を辛くも逃れた父の秘蔵のSPレコードの中にシューベルトの「冬の旅」があり、ゲルハルト・ヒュッシュの美しいドイツ語にすっかり魅了されてしまったからである。

当時、私は戦後の傷跡が色濃く残る東京・文京区（当時の小石川区）の焼け跡に建てた粗末な家に住んでいたが、自宅から歩いて15分ほどのところに、ドイツ人の牧師さんご夫妻のお宅があって、毎週水曜日の夕方、聖書をドイツ語で読む会を催しておられた。高々数人の集まりではあったが、ドイツ語を習い始めの私も仲間に入れてもらった。美しくて優しい奥様が、毎回必ずお手製のビスケットと紅茶を出してくださるので、本当のことを言うと、聖書よりもそちらの方が目当てで、大学生になってからも毎週通っていた。

それから数年後に物理学の学徒として、ヴィーンに給費留学し、給費期間が切れてからも、現地の原子力研究所に職を得て、しばらくの間、同国に滞在した。数年後に帰国してからも仕事上、ドイツのカールスルーエ原子力研究所、オーストリアのヴィーンの国際原子力機関には足しげく出張することになった。

たまたまとは言え、若いころから、私はこんなにドイツ語とは縁が深かったのに、お恥ずかしいことに、現在でもなお、ドイツ語の数字を聞き取ることが大変苦手なのである。ドイツの人と電話で話していて、例えば、049-721-68-32-34をメモしなければならない事態をご想像頂きたい。私はまず、極度に緊張する。最初の049はカントリー・コードで、あらかじめ知っているので、問題はない。しかし、次がいけない。721を700と1と20と三つに分け、さらに次を二桁ずつ早口で、8と60、2と30、4と30と言われると私はドギマギして、もう、冷静ではいられなくなるのだ。私は、物心ついてからずーっと、数字は、言葉で読み上げる順序に従って、左から右へ向かって書くことに慣れている。だが、この時ばかりは、「後から書く数字を何で先に言うんだよ！」と心の中で呪いの言葉を吐きながら、私は数字を右から左に向かって書くのである。それでも、うまくいくとは限らない。惨めな気分で何度も確認しなければならないのだ。

後から書く数字を先に読む習慣は、桁数の大きな数字を読む場合にも厳然と存在する。例えば、54.321〔ちなみに、ドイツ語では、位取りの印は(.)で表し、小数点の印は（,）で表す。〕を読んでみよう。

Vierundfünfzigtausenddreihundert - einundzwanzig

（４と50）の千と(3)の百と1と20という具合になり、行きつ戻りつ…、なかなか忙しいのである。

21以上の二桁の数を読む時、1の位を先に、10の位を後に読む習慣を持った言葉がドイツ語以外にあるだろうかと思ってインターネットで調べてみた。およそ50言語を無作為抽出して調べた結果、50言語のうち７言語（オランダ語、デンマーク語、ノルウェー語、ルクセンブルク語、スロベニア語、アラビア語、ヒンディー語）がドイツ語式の数字の読み方であることがわかった。このような数字の読み方は、上のデータからも、かなり珍しいことが分かるが、各言語の使用人口を考慮に入れると、更に珍しさの度合いが増加することになるだろう。このように稀少価値のある言語現象は、読むのに、かなりの、手間がかり、聴きとるのに、高い熟練度を必要としたとしても、何となく愛おしく、大切に保存したいという気分になってきた。

ドイツ語の数の読み方は全世界的に見てもかなり希少な現象であることがお分かりいただけたと思うが、序数（第1番目、第2番目、第3番目といった数）まで話を広げると、ドイツ語の数の表現には、他の言語にはなかなか見られない、非常に便利な点もある。それは、序数を問う疑問詞（wievielt）が存在することである。

例えば、「ジョー・バイデンはアメリカの何代目の大統領だっけ？」とドイツ語で問うてみよう。

Der wievielte Präsident ist Joe Biden?

序数を問う疑問詞がない英語ではどんな風に問うのだろうか、もし英語でスマートに問う方法をご存じの方がおられたら、そっと、教えて頂きたいものである。

同じような便利な例は、以下のように、枚挙にいとまがない。

Der Wievielte ist heute? / Den Wievielten haben wir heute?

（今日は何日だったっけ？）

Zu wievielt wart ihr in Paris?

（君たち何人でパリに行ったの？）

Als Wievielter ist er durchs Ziel gegangen ?

（あいつは何番目にゴールインしたんだい？）

In dem wievielten Stock wohnen Sie?

（あなたは何階にお住まいですか？）

しかし、ここで油断できないこともある。ドイツ語には序数を問う疑問詞という便利な武器がある一方、深刻な性の悩みもあるのだ。

Die wievielte Bundeskanzlerin ist Angela Merkel? と訊かれれば、アデナウアー首相は第1番目の連邦首相であるから、メルケル首相は第8番目の首相と答えたいところだが、メルケル首相以前には“Bundeskanzlerin“はいないのだから、論理的には、第1代目と答えざるを得ないだろう。

メルケル首相の直前のシュレーダー首相の場合には、Der wievielte Bundeskanzler ist Gerhard Schröder? の答は、第7代目で正解である。では、メルケル首相の後継首相が男性ならば、つまり、“Bundeskanzler“ならば、その人は第8代目首相、女性ならば、つまり、“Bundeskanzlerin“ならば、その人は第2代目首相ということになるのだろうか？

「性」を逆手に取った屁理屈をこねると、上記のように、ややこしいことになるが、勿論、実際には、次期首相が男性であれ、女性であれ、何の抵抗もなく第9代目首相と呼ばれるに違いない。そうなると、Bundeskanzlerinという言葉の語尾に折角くっ付いている “-in“ が完全に無視されたことになり、女性軽視どころか女性の男性化という、許すべからざる由々しい問題に発展しかねない。これは大変だ。ドイツの人達が、この「性の悩み」にいかに論理的に折り合いをつけるか楽しみなところである。

3月例会「律令制と女性官僚」に参加して

会員　　中沢夏樹

神武陵に参る筆者

いくつか気の早い桜が満開となった3月最後の日曜日、大澤由美子さんによる標記講演に参加した。そもそもこのようなタイトルで会員の方が講師となり、ほぼ定員一杯の出席者があることで湘南日独協会の知的レベルも伺えようというものだ。それなりの歴史好きを自認する私も初めて聞く話が多く、レジメには見たことのない用語が散見された。

何より最初の説明で、遣唐（隋）使の渡海ルートを意識したことが無いことに気づかされて脱帽。その他、知っているようであいまいだった班田収授や式内社の意味が明確となったし、天皇の後宮職員の人数とランクの話も興味を惹くものであった。また采女に「端正」の条件があると慨嘆されるのを聞きながら、遣唐使の人選でも「容姿、風采、態度、動作」の条件があったことを思い出した。家柄や頭脳だけでは足りない訳で、当時の政権が唐にどう立ち向かうかその力の入れようが分かって微笑ましい。（なお唐側の記録にも日本からの使節のイケメン振りは記録があるという）

さて全くたまたまであるが講演の前日まで旅に出ていた。その旅程は明日香、吉野、十津川、熊野、伊勢というもの。多くの古寺、古社巡りでいよいよ身も心も清らかになった気がするがそれはともかく、最初に訪れたのが高松塚古墳であった。ここで見逃せないのが棺を取り囲むように描かれた古墳壁画で、カラーで蘇った女性群像が特に有名である。まさに律令時代の女性官僚のイメージそのものといえる。（現在壁画現物は非公開）これ以外にも古代のやんごとなき女性の息吹は各所で感じられた。例えば、近くを通った箸墓古墳は卑弥呼の墓かも知れないと話題になった。五分咲きだったが十分桜を楽しめた吉野には、女帝の持統天皇が30回も訪れたと伝えられる。そして旅の最後は女神アマテラスのおわす伊勢神宮で、日々の平穏を祈った。ついでに言えば、ここ伊勢の地に神宮を定めたのも第11代垂仁天皇の皇女倭姫（やまとひめ）であったとされる。

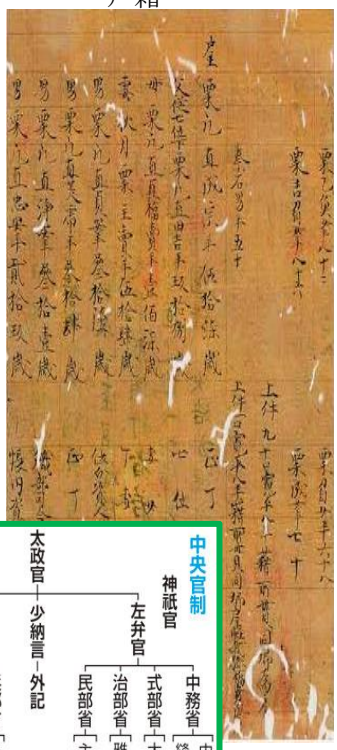
ところで明治維新といえば日本に近代をもたらした大変革。明治時代に作られた社会システムは我々が生きる現代にも大きな影響を残している。この維新のスローガンは「王政復古」であった。従って明治2年に発足した新政府は律令制そのままに太政官政府と名付けられた。20年ほど前、不祥事のため大蔵省が財務省と金融庁に分割された時、「律令以来の由緒ある大蔵省という名前を無くすのか・・」との声が挙がったことを記憶している。

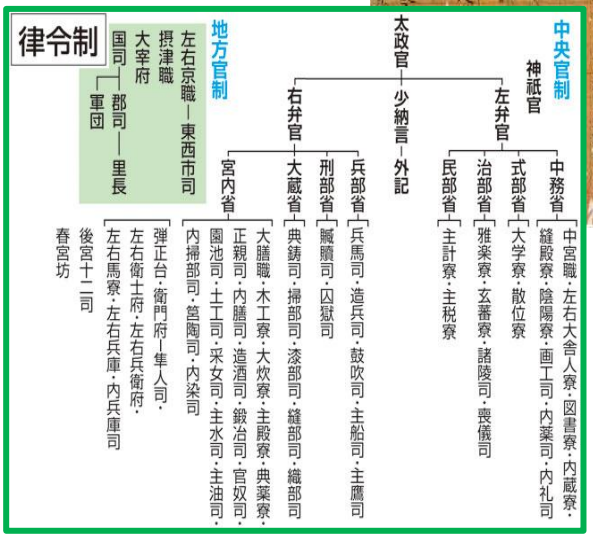
更に注目すべきことがある。律令制度は唐など大陸のシステムを模倣して作られた筈なのに、トップの在り方は全く違う。大陸の皇帝は絶対専制君主なのに対し、日本の天皇は政治の実権は貴族に委ねていた。現代と同じ「象徴天皇制」から古代の歴史は始まっていたのだ。かくも歴史の連なりは深く、重い。歴史の探求の楽しさには限りが無いといつも思う。

配布資料の一部

大澤由美子氏

戸籍





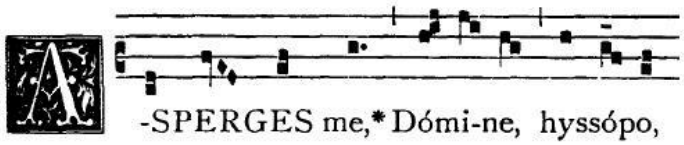
クラシック音楽の楽しみ方　　第 10 回

会員　高橋　善彦

今回は、歌の話(その1)です。古代ギリシアの時代から長い期間、歌が音楽を牽引しています。全貌を取り上げることは無理ですので、西洋音楽の起点の一つとなるグレゴリオ聖歌から、声楽曲の発展の概要です。

グレゴリオ聖歌 (Canto gregoriano)は

ローマ・カソリック教会(Ecclesia Catholica)で典礼に使うLatin語の単旋律聖歌です。主要部分はフランク王国のCaroling朝、カール大帝の時代の768年頃にローマとガリア(イタリア半島北部)で使われていた聖歌を統合し比較的短い期間でまとめられます。その後、9世紀から10世紀にかけて改変を経て整備されていきます。この聖歌には、既存の地域の旋律も多く取り込んでいます。11世紀、イタリアToscana州の街Arezzoの修道士Guido d'Arezzo が考案した、4本線を用いた記譜を使い始めます。



この記譜をSquare記譜Neumeと呼びます。多くの曲を区別できる記譜法になります。Liber Usualis として出版されてるグレゴリオ聖歌集は1900頁を越えています。影響力の強い聖歌集に4本線の記譜法が使われることで普及し、複数の音を同時に鳴らす、複旋律の音楽を記述し、残しやすくなり複旋律音楽の発展を促します。

音楽の構造を指す言葉の整理

Monophony	単旋律の音楽　例) グレゴリオ聖歌
Heterophony	Monophony音楽に複旋律が混在する
Polyphony	複数の声部から作られる音楽 例) Fuge
Homophony	旋律に和音が付く音楽 例)Vivaldi 四季

Polyphony音楽

中世の音楽 (500年から1400年の間)は、宗教曲と世俗曲ともに発展します。声楽はグレゴリオ聖歌や合唱曲、器楽は歌の伴奏を典型として発展します。中世を通じ西洋音楽で共通となる譜面、音楽理論の基礎が作られ、羊皮紙等に書かれた音楽とともに広く普及するようになります。

1240年頃に英国で歌われていた、Sumer is icumen in (夏は来りぬ)は、現存する最古の輪唱(Canon)、Polyphony音楽です。英国の歌には、世俗曲、宗教曲ともに、ケルトの影響が色濃く残っています。

吟遊詩人　記録も音楽も多くは残っていないのですが、中世の歌曲を発展させたのは各地で活動していた吟遊詩人達です。10～13世紀中期に欧州各地で活動した聖職者の遊歴詩人**Goliards**、12～14世紀にフランスの南部で活動した貴族の吟遊詩人**Troubadours**、北部で活動した**Trouvères**、更に広がり、ドイツで活動した貴族階級の吟遊詩人の**Minnesänger**と、一連の流れの中で歌曲を発展させています。愛を語る世俗歌曲が中心ですが、礼拝音楽も残し、後に各都市で発展する歌曲芸術、**Meistersinger**に強い影響を与えています。

フランス　Ars antiquaとArs nova　音楽理論の確立

Notre Dame楽派は1170年～1310年頃、Notre Dame大聖堂を中心に活動し、その音楽様式を**Ars antiqua**と呼びます。Notre Dame楽派はPolyphony音楽を発展させ、リズムの記譜方法を加え、教会の礼拝用の音楽を整え、多声部のMotetを開発しています。14世紀のフランスArs novaの時代になると、宗教音楽のPolyphony音楽は成熟し世俗音楽にも使われます。ミサ曲の演奏形態を確立し、音楽の記述(記譜)など音楽理論を確立しています。

イタリア　Trecento　新しい歌曲の開発

Ars novaの影響を受け、14世紀のイタリアのFirenze, Milano, Padova, Bolognaなどの街で、叙事詩的で旋律的なイタリア音楽の原型となるMadrigal, Cacciaなど新しい歌曲が生まれます。

イタリア　Madrigale / Madrigal

イタリアのMadrigalは、中世末期から Renaissance (15～16世紀), Baroque初期まで作られた重要な音楽です。イタリアRenaissance初期、Trecento(14世紀)の時期、Madrigalは変化し多彩な歌曲が生まれます。無伴奏Polyphony音楽のMadrigalや、3～6声部の曲が多数派です。歌詞によって同じ音楽を繰り返し使う様式でなく、各歌詞の行にある言葉に合わせて音楽を用意します。

フランドル楽派の初期　英国からの影響

中世後期からRenaissanceへの過渡期、百年戦争休戦中の1410年頃、英国の**John Dunstaple**がフランドル楽派初期の作曲家**Guillaume Dufay**に英国の地域の即興技法"Faburden"として3度音程(ドとミの関係)の使い方を伝えます。これが西洋音楽の和音の起点で、欧州の音楽が大きく変わります。

1520年代にフランドル楽派は、イタリアやフランスで人気のあったフロットーラ、シャンソン、Motet等の曲を元に、新しい様式の音楽を作り始め、欧州各地に出向いて広めています。

16世紀後半になるとイタリアで、Madrigalは発展し、教会向けのMadrigalにも派生し、英国やドイツにも広がります。英国でのMadrigalは簡単な形、繰り返しを持つ音楽を使いWilliam Byrd, Thomas Morley, Michael Eastらの**英国Madrigal楽派**となります。フランドル楽派末期のNetherlandの作曲家、**Adrian Willaert**はVeneziaに移り、**Venezia楽派**を創立します。

Gabrieli, MonteverdiとConcertato Madrigal

音楽がRenaissanceからBaroqueに変化する中で、イタリアVenezia楽派の**Monteverdi**は、9冊のMadrigal曲集を出版し、第5巻あたりから新しい様式の音楽に変化しています。この新しい様式を**Concertato Madrigal**と呼びます。

Giovanni Gabrieli

Claudio Monteverdi

Concertatoは、**通奏低音***の上に、2つ以上のグループが対比しながら音楽を進める形式で、Veneziaの**聖Marco大聖堂**の広さから生まれた音楽の様式です。大聖堂の長い残響と反響の遅れにより、大聖堂の左右に配置した聖歌隊や合奏団が同時に演奏することは困難です。この空間の広さを活かし、左右の対比が効果的に聞こえるような音楽の構造を**Giovanni Gabrieli**らが作り上げます。聖Marco大聖堂の合唱や器楽の使い方をCappella Marciana(聖Marco大聖堂様式)と呼び、cori spezzati (分離合唱)の配置が生まれます。G.GabrieliとMonteverdiの弟子であったHeinrich Schützによってドイツに伝わり、Mehrchörigkeit (複数合唱)となります。

Concertato様式の2つのグループは、合唱を分離するだけでなく、イタリア様式の協奏曲に使う独奏楽器群と伴奏楽器群や、声楽曲の独唱と合唱にも応用し、単純な交唱ではなく対比や競合の面白さを備えた音楽に発展します。

***通奏低音** (Basso continuo)　伴奏に使う低音楽器(群)を指す呼び名です。楽譜には低音部の音だけを記譜し、奏者が解釈しながら和音を付けて演奏します。曲の時代や性格により Violoncello, Contrabasso, Fagotto, Cembalo, Organo, Theorbo, Luteなどから、楽器を選択して使います。

FirenzeのCamerata de‘ Bardi　16世紀後半

Camerata de‘ Bardi **:** Firenzeの人文主義者や音楽家、詩人等の知識人が、Giovanni de’ Bardi伯爵の邸宅に集まり結成した音楽サークルです。1597年頃イタリアの作曲家で歌手の**Jacopo Peri** が*Camerata*の為に、ギリシャ神話の精霊 ”Dafne”、最初のOperaを作っています。

Renaissance音楽では、3声部以上の声楽が主流ですが、このOperaでは登場人物が独唱します。これを**Monodia形式**と呼びます。*Camerata*の一員、Giulio Caccinは、1601年に “新音楽(Le nuove musiche)”という作品の中で、歌手と伴奏用の低音パートだけの2声部の音楽を作っています。これが、**Recitativo**と通奏低音の原型となります。

Opera

今でも上演されるOperaは、1607年にMantovaで初演されたMonteverdiの “L‘Orfeo”が最古のOperaです。また、この曲の中に初めて**Da capo Aria**が登場し、以降、多くの声楽曲などで使われるようになります。

ギリシャ悲劇を復興しようとして発展したOperaはOpera seria (正歌劇)と呼びます。Seriaで扱うのは悲劇だけに限っていません。ハッピーエンドもあります。

これに対して、Opera buffa (喜歌劇)は世俗的な内容を取り上げます。元々Seriaの幕間劇として演じられたコメディから独立しています。現存している初期の幕間劇は、G.Pergolesiの”奥様女中”(1733)です。Buffaでは、Basso buffo(道化的バス)とPatter(早口言葉を使った歌)が名物となり、Alessandro Scarlattiの “東方の皇帝 Tiberio” (1702)の二重唱 “Non ti voglio”(貴方なんか)に出てきます。VeneziaとNapoliで初期のOpera buffaを作り、独立した作品として人気を得て、各地で盛んに作られるようになるのは1760年頃からです。

ここまでで、歌を使った音楽の基本的な要素が出揃います。ここからの発展は、器楽側の発展が必要になります。次回、器楽の発展のお話しに続きます。

４月例会―『私の短歌生活』に思うー

会員　　中村茂子

中村茂子氏

人の一生は儚く過ぎる。現在のコロナ感染状況において人と会う機会も少なくなると、重なる日々はまるで滑るように一年という単位に集約されていく。

短歌を詠むことは、あわあわと消えゆく日々に歌でタグを付ける。歌に詠まれた瞬間から、その日のその時は記憶の中で屹立し消えることがない。

大久保明氏の講演「私の短歌生活」を聴講し、そうしたことを強く感じた。

講演冒頭に紹介された子規の短歌「くれなゐの二尺伸びたる薔薇の芽の針やはらかに春雨のふる」は、大久保氏が小学生の時、青竹細工で柱掛けを作った記憶に結びつく。青々と瑞々しい青竹の色彩に、子規のこの歌の美しさが呼応し強く印象に残ったという。大久保氏がこの歌を講演の最初に取り上げたのには大きな意味がある。近代短歌は子規の『歌よみに与ふる書』によって、それまで大事にされてきた古今集を否定し、万葉集や源実朝を賛美することに端を発した。子規はこの歌論の終わりを「自己が美と感じたる趣味を成るべく善く分かるやうに現すのが本来の主意に御座候」と結んでいる。まさに万葉集を披けば千年以上の時を経て当時の人々の喜び悲しみが立ちのぼってくる。歌に詠まれた風景、情感は長い時を経ても風化することがない。大久保氏が実践しておられる「短歌生活」は、日々の暮らしを慈しみ生きることに通じる。

講演では美智子上皇后の御歌、歌会始の歌、新聞掲載の歌壇なども紹介されたが、私にとって何よりも興味深いのは講演者、大久保氏の短歌であった。

「やわやわと揺れる柳のほそき葉の水に届けるその時を待つ」これは目の治療で通っていた大学病院のある駅での風景。柳の枝先の葉が下の水に届くか届かないか、その様を見つめている歌であるが、詠まれたのが病院の最寄り駅と知れば、じっと眺めるその時の詠者の心持までも感じられ、その様子が目に浮かぶ。

「母の死を告ぐる電話の受話器には井戸の深きに水の湧く音」　母の死の知らせの電話の受話器で水の湧く音を聞いたようだが定かではない。むしろこの水の音は大久保氏の心に鳴った音であったか。ここからのご母堂挽歌三首は必ずや読む者の心をうつ。同様に亡き父上の生前の様子が偲ばれる「おりおりに妻の書きたる絵葉書が父の文箱に仕舞われてあり」も胸に迫る。「山の影ゆっくりと伸び釣り舟はくじらの口に入るごとく消ゆ」「方丈の丸窓越しに矢飛白（やがすり）の衣一枚花菖蒲見ゆ」は、いずれも表現の妙。「飢えもまた郷愁となりぬ水無月の垣根に茱萸（ぐみ）のあかあかと照る」赤い茱萸の手触りと味を思い共感する。

大久保氏は歌を詠むに際しての注意点を六つあげた。曰く、事柄に徹すべし、事柄に溺れるなかれ、言わずして語るべし、他人の目から見るべし、気品を保つべし、三日後に読み返すべし。いずれも納得がいく。氏は作った歌を30回は読み返すという。こうしてできた歌は、再読すれば20年30年と時を経ても当時の生活や情感が湧き出てくるという。

私は父がアララギ歌人であったので、幼い頃から短歌はいつも身近にあった。齋藤茂吉『赤光』の歌のいくつかは折にふれ口をついてでる。

大久保明氏のお話に、「短歌生活」大いに見習うべし、と感じた。

講演会場

休憩時間の会場風景

劇場便り　２５

ブレーマーハーフェン　志賀トニオ氏

劇場正面に掲げられたプラカード　右拡大写真

ドイツでは昨年の11月から半年以上もの間、飲食店並びに生活必需品を除く店舗が休業していましたが、5月に入りようやく感染者が下がり始め、地域によっては制限付きで開業が認められてきました。ワクチン接種が進み、ドイツ全体で３５％の国民が一回目の接種を終え、希望の明かりが灯った雰囲気になっています。一昨日には全国で一日に135万人がワクチン接種を受けた新記録となりました。そして今日私の所にもかかりつけ医から突然の電話があり、急遽一回目の接種に行ってきました。4月からはコロナテストの簡易キットが広範囲に流通し、希望者はテストセンターで週2回無料で検査ができるようになり、学校や職場でも週2回のテストが義務付けられました。そして劇場の仕事も、この簡易キットのおかげで稽古を再開する事が可能となりました。久しぶりの仕事はまずその簡易キットの使用方法の説明から始まりました。その日は同僚たち３人とそれぞれ離れた席に座り、担当の方からの説明に沿って箱を開封しました。まずはゴム製の小さな試験管に溶液を入れ、次に細長い綿棒のような棒を鼻に入れ粘膜を採取。それを先程の試験管に入れ溶液と混ぜる。ここで箱から判定機を取り出し、そこに溶液を垂らす。15分待って赤い線が2本出たら陽性。1本なら陰性。それぞれがタイマーをセットし、ドキドキしながら結果を待つ。陰性の結果でガッツポーズ！皆が陰性だったのでいよいよ稽古が始まりました。仮にここで陽性になった場合は、PCR検査に行く事になります。

文集に出てくる
コロナ簡易キットと
関心を持つお子様方

この日に始まったのはコレペティの音楽稽古のみです。まずは結局キャンセルになってしまったオペレッタの代わりに、上演が再開された時に融通の利くガラコンサートをやる事になり、その演目の稽古。ガラコンサートのテーマはベルリンのオペレッタです。オペレッタと言えばウィーンを思い浮かべると思いますが、ベルリンにも一時代を築いたオペレッタの伝統があり、今回はその代表作が中心です。Paul Linke 作曲のFrau Luna は大ヒット作で、中でもDas macht die Berliner Luft Luft Luftはベルリンっ子なら誰でも口ずさむナンバーです。Willi Kollo 作曲のWie einst im Mai は有名なテノール歌手のRene Kollo　(ルネコロ）のお父さんの曲です。正確にはお爺さんのWalter Kolloの作品をその息子のWilli Kollo が手直しした作品で、ワーグナー歌手として名を馳せたルネコロがオペレッタの名手でもあったのもうなずけます。どれもとても楽しい音楽で、コロナ禍で沈んだ気分を晴れやかにしてくれるプログラムです。その後2週間程稽古が進んだ所で、また残念な情報が入ってきました。ブレーマーハーフェンは一向に感染者数が減らず、今シーズンの再開は難しいとの事で、ガラコンサートの稽古は一時中断し、来シーズンの演目のみの稽古をする事になりました。通常であれば来シーズンの準備は6月にするのですが、今年はゆっくり時間をかけて出来る事になりました。まずはOffenbach（オッフェンバック）作曲のHofmanns Erzählungen（ホフマン物語）、Mozart 作曲のDie Entführung aus dem Serail (後宮よりの逃走）そして現代曲のGlanert 作曲のOceaneの音楽稽古が始まりました。5月に入るとコロナテストも検査キットが配布される事になり、自宅で出来るようになりました。そしてドイツ全土でようやく感染者数が急速に減少し始めました。そしていよいよ屋外での公演が許可される数値に近づき、来週から急遽6月からの公演開始に向けて立ち稽古が始まる事になりました。ミュージカルのシカゴは外での公演が難しいので、プレミエまでこぎ着けたカルメンとガラコンサートが取り上げられることになりました。皆半年以上本番から離れているので、コンディションを取り戻す事が稽古の主な目的です。私も昨晩、ワクチン接種の副作用で40度近い熱が出て、今日は一日寝込楽しみにしています。

ドイツ　野鳥の思い出

会員　　島　新

Melibocus山にてY―クラブの山歩き（中央が筆者）

フランクフルトの北方20キロ、車で20分ほどの所に、「バートホンブルク」という人口５万ほどの美しい町がある。大邸宅が多い高級住宅地でもあり、温泉もある。

１８８８年には、皇帝ヴィルヘルム２世が夏の宮廷都市としたことでも知られていて、かつてはヨーロッパ中の貴族が集まる場所でもあった。

町の中心には、大きな公園があり、公園の中には、温泉や、ショートホールだけだがドイツ最古のゴルフクラブがあり、モンテカルロよりも早く出来たカジノがある。公園前や目抜き通りなどには、ホテル、レストラン、商店、スーパー、デパートなどがあり、自然に囲まれた美しくて住みやすい町であった。ここに、２００１年から６年間ほど住んだ。事務所も近くにあった。

バートホンブルクは、その「高地(Hohe)の前にあるバートホンブルク」(Bad Homburg vor der Hohe)という名の通りタウナスの山の麓にあり、自然に恵まれていて、何よりの特色は、様々な野鳥が訪れることである。

駐在赴任して住み始めて間もないある日、フランクフルト方面からアウトバーン５号線で帰ってきた時のことである。５号線から、アウトバーン６６１号線に入り、すぐにバートホンブルクへの出口に入る。周りには農地が広がっている。出口の道は、緩く右にカーブを切り、両側には低い灌木が連なっている。出口なので、スピードは落としたが、それでもまだ時速５０から６０キロはでていたと思う。そのとき、一羽の鳥が右の灌木から、私の車の前を横切り、左の灌木へ飛んで行った。一瞬だったが、羽根の裏の鮮やかな青色が目に入った。なぜか「あっ、カケスだ！」と思った。アパートに帰って図鑑を調べてみると、やはりカケス(Eichelhäher)で間違いない。　カケスは、子供の頃住んでいた箱根仙石原俵石で、空気銃で撃たれたカケスを見て以来である。５０数年ぶりに見るカケスであった。

その後、アパートの庭の木にやってきたカケスを見、さらに、近所を散歩していても見かけた。日本で一度しか見ていないカケスを、５０数年ぶりにドイツで三度も見たのは、今考えても、なんとも不思議な思いがする。

アパートには広い庭があり、リンゴ、プルーン、タンネンバウムなどの木々が植わっている。緑に覆われた地面には、時々リスのカップルが遊び回っていたが、常時様々な野鳥がやって来た。春夏はクロウタドリ (Amsel)と思われるカップルである。良く通るきれいな声でさえずる。庭を走り回ったり、飛び回ったりして、愛嬌のある目で、こちらの気を引こうとする。

プルーンの木には、アカゲラ(Buntspecht)もやって来る。リビングのソファに座っていた時のこと。テラスのレースのカーテンに陽が当たっていて、何かちらっと鳥の横切る影が一瞬映った。影の大きさから、少し大形の鳥らしい。カーテンの陰からそうっとのぞいてみると、テラス越し１０メートルほど先のプルーンの太い幹に、頭に赤く丸いマークを付けたアカゲラが止まっていた。木の周りの表面を盛んにつついていて、しばらくすると飛んで行ってしまった。野鳥観察ノートを見てみると、1ヶ月後にも、同じ木にやって来ている。

アパートのテラスに、小鳥の餌場を作ってみた。丸いテーブルの上に餌入れと、水を入れた浅いボールを置き、小鳥が天敵から身を隠して安心して餌をついばめるように、小さな鉢植えの木を置いた。ここには、シジュウカラ(Kohlmeise)、コジュウカラ(Kleiber)、ウソ(Gimpel)など多くの小鳥がやってきた。体の大きな鳩も来ることがあって、体の小さな小鳥たちは皆追い出されてしまう。だが、繁盛したテラスの餌場も、その後の鳥インフルエンザの問題が

起こってからは、やむなく片付けて休業とせざるを得なかった。

駐在生活も１年をすぎた２００２年１０月のある日のことであった。アパートの駐車場から幅４、５メートル、長さ２０メートルほどの私道を通って、通りに出ようとした時である。ドライブウェイの真ん中に、大鷹がいるのに気づいて思わず車を止めた。４、５メートルほどしか離れていない。獲物の鳩を太い両足でぐいとつかみ、「これは、俺の獲物だぞ！」と言わんばかりに、金色の目と黒い鋭い瞳でこちらをにらんでいた。あまりに神々しい姿に見せられ、しばし見とれていたが、獲物を置いたままスッと飛んで行ってしまった。鷹は獲物を取りに戻ってくることはないという。せっかくのごちそうだったのに、かわいそうなことをしてしまったと、この光景を思い出すたびに悔やまれた。

カササギ(Elster)も多く見られた。見た目は、ハシボソガラスを白と黒のブチにしたような鳥である。アウトバーンの出口あたりの高い梢に巣を作っていたのをよく見かけた。日本では、なかなか見かけないが、以前に一度、九州の佐賀県で見かけたことがある。図鑑で調べると、日本では、佐賀、福岡、長崎、熊本の４県だけに生息しているという。

「Yクラブ」という会の存在を知り、参加出来たのも、週末と言えばゴルフだけという楽しみしか知らなかった駐在生活に大きな彩りが得られた。

フランクフルトに日本企業や、日本人を主要な顧客として営業していたW社という旅行社があって、「Yクラブ」は、そこの２人の共同経営者の１人であるYさんが主催する山歩きの会であった。

Yクラブの活動は、月に一度である。参加者は、フランクフルトの市街の外れにあるYさんのアパートの前に、数人から１０人くらいが自分の車で集まる。数台の車に分乗して、１、２時間ほどアウトバーンを走り、目的地に着く。山の麓に車を駐車して山を歩き、下山してレストランで昼食を楽しむ。ワイナリーでワインを試飲して、気に入ったワインを買って帰る。というのが典型的なパターンであった。良く出かけたところは、フランクフルトからアウトバーン５号線を南に１時間弱ほど行ったところにあるベンスハイム（Bensheim)界隈である。５号線の東側に小高い山々が南北に数十キロに渡り連なっている。その中に、メリーボックス（Melibocus)という標高５００メートルほどの山があり、その中腹の駐車場に車を止め、頂上まで登った。

ある年の１１月、寒い時である。ここでみたものは、シジュウカラ（Kohlmeise)，オナガ(Schwanzmeise)，頭の青いシジュウカラ（Blaumeise)であった。キツツキの巣穴もいくつか見かけた。

この「Yクラブ」で、ドイツ人の野鳥観察グループに合流し、そのリーダーの案内で、野鳥観察に出かけたことがある。２００６年５月の事であった。フランクフルトから北方５０キロほど行ったところにあるフローシュタット(Florstadt)の自然保護地区での野鳥観察である。

この時の野鳥観察ノートを見ると日本でよく見るトビ（Schwarzmilan)、種類の違うやや赤みを帯びたトビ（Rotmilan)、オオジュリン(Rohrammer)など、 合計３０種類ほどの野鳥を観察している。ドイツ人のリーダーは、遙か上空を飛んでいる何種類かの鷹を、「あれはチョウヒ（Rohrweihe）、あれはチョウゲンボウ（Turmfalke）」と見分けるのを見て、すごいなあと感じた覚えがある。日焼けしてたくましく締まった顔の背の高い人であった。その後、ゴルフ場でホーバリングしている小型の鷹などを見かけると、「あれはチョウヒだな」とわかるようになった。

（次ページへ続く）

カケス（Eichelhäher)

Florstadtの自然保護地区の野鳥観察小屋

（前ページよりの続き）

今現在、住んでいる西鎌倉の我が家の近くには、広大な鎌倉広町緑地公園が広がっている。公園に隣接して鎌倉山の自然もある。散歩をしていると、様々な野鳥に出くわす。ジョウビタキ、ヒヨドリ、ハクセキレイ、キセキレイなどである。あるいは、姿はなかなか見られないが、見事にさえずっているウグイスや、遠くから聞こえてくるホトトギスの鳴き声も盛んである。

シジュウカラもよく見かける。ドイツで目にしたシジュウカラも、日本と同じように下から見ると、白いワイシャツに黒いネクタイをしているようだが、何か少し違って見え、鳴き声も日本でなじんだものとは少し違っていた。学名から調べても同じ種の鳥である。だが、上や脇から見たときの暗緑色の羽色が、ドイツの方がやや鮮やかに思われた。

先日、このいつものルートを散歩していたときのこと、コジュケイの親子連れに出くわした。すぐに藪の中に隠れてしまったが、数羽の子供連れの一行は、なんともかわいらしい。いつもは、この鳥の「チョットコイ、チョットコイ」と早朝、近所でけたたましく鳴く声に、春の浅い眠りを起こされるのだが、この子連れの一行の愛くるしさに魅せられて、（いつ鳴いても、いいよおぉぉ）と思った。

そのようなある日、散歩の途中の公園で、家内とベンチの日だまりに腰掛けて休んでいると、

「トントントントントトトトーン……」

と、どこからともなくキツツキが木をつつくドラミングの音が聞こえてきた。このあたりには、キツツキと言えば、小柄なコゲラしかいないと思うのだが、それにしては割合大きな、良く通る音であった。

――（ドイツでも同じような音が聞こえてきたなあ。）

ドイツで、ゴルフのプレイの途中、ベンチに腰掛け、春先の柔らかな日差しを浴びながら、一人遠くを眺めながら休んでいると、どこからともなく遠くから、キツツキのドラミングの音が聞こえてきたゴルフ場での情景が、つい昨日のことのように蘇ってきた。（了）

第２２回定時総会報告（主要点）

４月２５日（日）13:00ー14:00 会場：湘南アカデミア

令和２年度の活動報告

新型コロナ感染防止、のため、十分な活動は出来なかったが、対策を講じ、各種の規制条件に対応したうえで次のような活動を実施した。

〇例会

９月下条泰生氏「ハイデッカーにみる”自然と人間“そして俳句」講演会、１０月高橋忠夫氏「ドイツ文学の楽しみ方あれこれ」講演会、３月大澤由美子氏「律令制と女性官僚」を開催。

〇ドイツ文学を原書で楽しむ「読書会」

現在ヘルマン・ヘッセの「Demian」は広い風通しの良い部屋を使用し、各種規制勧告を勘案開催

〇ドイツ語講座

前期に引き続き、オンラインにて開講（入門、初級、中級、上級会話、上級新聞講読）

〇広報

・会報Der Wind４回発行　・ホームページの常時更新

・江ノ電沿線新聞を通じての広報

〇合唱団「アムゼル」支援

〇その他

藤沢並びに鎌倉での各国際フェスティバルは中止

令和３年度活動予定

前年度に準じて、コロナ感染状況に対応し活動を継続するとし、新たなプログラムとして「見て聞いて楽しむ音楽史」講師はDer Windに連続掲載中の「クラッシク音楽の楽しみ方」の著者高橋善彦氏を迎えての、映像と音とお話しのシリーズを６月から開催予定です。また、談話室｛SAS｝の復活も準備中です。

役員人事

前期中に吉村邦広理事が辞任され、吉田克彦顧問が逝去され、前期をもって水谷妙子理事が退任されました。

新たに松川倫子氏（江ノ電沿線新聞社社長）が顧問に就任されました。

今期は以下の体制となりました。

会長	松野義明			
副会長	勝亦正安	大久保明		
常務理事	大澤由美子	中村茂子	中嶋照夫	島新
理事	伊藤志津子	寺田雄介	鬼久保洋二	
	小野宏子	高橋善彦	田中満穂	
監事	西澤英男			
名誉会長	織田正雄			
顧問	大石則忠	古橋昭子	三谷喜朗	西山忠壬
	松川倫子			

令和２年度決算並びに令和３年度予算書

	R2年度決算	R3年度予算
収入の部		
1. 会費収入等		
前期繰越金	93,215	86,232
入会金	0	2,000
年会費	326,200	310,000
寄付金	100,000	0
利息	0	0
合計	519,415	398,232
2. 事業収入		
例会	72,000	100,000
ドイツ語講座	1,144,100	1,100,000
読書会	99,000	100,000
SAS	0	50,000
新企画		100,000
合計	1,315,100	1,450,000
収入合計	1,834,515	1,848,232
支出の部		
1. 運営費		
広報費	149,575	180,000
通信費	55,852	100,000
事務用品費	18,931	30,000
事務局経費	154,721	200,000
諸経費	20,100	31,000
その他	35,289	0
合計	434,468	541,000
2. 事業経費		
例会	99,600	600,000
ドイツ語講座	1,164,055	1,100,000
読書会	35,160	40,000
SAS	0	30,000
新企画		48,000
合唱団育成費	15,000	15,000
合計	1,313,815	1,293,000
支出合計	1,748,283	1,834,000
差引余剰金	86,232	14,232

（中嶋　大久保）

お知らせ

ドイツ大使館首席公使Dt.フィーツェ講演会は昨年来新型コロナ感染下で延期され、７月１日の開催を予定しておりましたが、環境が好転せず、中止となりました。公使からはあらためての日程調整を頂くことになっておりますので、早い時期での実現を図りたいと考えております。

大使館よりの寄贈

アンペルマン

大人気のキャラクターAmpelmannの物語が本となり、日独交流１６０周年記念として、ドイツ大使館より届きました。お読みになりたい方はご連絡ください。表紙の左のロゴは日本側の作ったロゴ、ドイツ側の作ったロゴはDer Windの冒頭に掲載しています。

新入会員紹介　　敬称略

原口　和子

会費納入のお願い

令和３年度の年会費の納入をお願いします。この会報に郵便払込取扱票を同封しておりますので、新型コロナ感染予防でお出かけのご不自由な方もおられるとは思いますが、よろしくお願いします。

編集後記

○新型コロナ感染の環境改善がなかなか進まず湘南日独協会の活動も制限を受けていますが、各種の対策を講じ可能な範囲内で継続しています。アムゼルは練習を当面控えることになり、読書会は中断後再開しています。テキストのDemianは第４章に入りました。これからでもご参加ください。

○新しく始まりました「見て聴いて楽しむ音楽史」はオーケストラに携わっている、高橋善彦講師が身をもって感じている音楽そして長年の研究を得意の各種機器を操り、音源、映像を使用しての楽しい時間です。７月１日が第２回です。お待ちしています。

（大久保）

湘南日独協会催事カレンダー（2021年6月～9月）　6月1日現在の情報です

6月	談話室SAS	当分の間中止いたします。
	読書会	1日（火）　15:00-17:00　　ミナパーク　５０５　会費：1,000円 15日（火）　15:00-17:00　　ミナパーク　５０５　会費：1,000円
	役員会	２７日（日）12：30- 14:00　江ノ電第2ビル　7階　湘南アカデミア
	講演会	**6月の例会はありません。** **当初予定していた6月27日高橋愉紀氏講演会は7月25日に延期されました。**
7月	談話室SAS	当分の間中止いたします。
	読書会	6日（火）　15:00-17:00　　ミナパーク５０５　　会費：1,000円 20日（火）　15:00-17:00　　ミナパーク５０５　　会費：1,000円
	役員会	25日（日）12:30- 14:00江ノ電第2ビル　7階　湘南アカデミア
	講演会（1）	１日（木）予定の、ドイツ大使館首席公使Dr.フィーツエによる講演会は、最近のコロナ情勢に鑑み、中止します。再開の際は、改めてお知らせします。
	講演会（2）	25日（日）14.30－16.30 江ノ電第２ビル　７階 湘南アカデミア　　会費1,000円 演題：「私の音楽修行について―東洋人が西洋音楽をするということ」 講師：高橋愉紀氏　（会員、ピアニスト） 概要：講師36年間のヨーロッパ生活の中から、ご自身の豊富な体験を通してつかみとった西洋音楽の研鑽について、電子ピアノの演奏を交えつつ、語って頂きます。音楽学生生活、外国からの留学生の学びの姿勢、日本との生活慣習の違いから学び取った西洋人の考え方、日常生活とその中でのハプニング、子供の教育を通して感じたこと等々、海外経験のある方にも無い方にも、役に立つ、興味ある話題満載の、且つミニ・コンサートとも言える2時間です。 懇親会：有り
	見て聴いて楽しむ音楽史（第2回）	1日（木）14:30～16:30江ノ電第２ビル７階 湘南アカデミア　　会費1,000円 演題：Mozartの音楽 何が凄いのか？[その1] 講師：高橋善彦氏　（会員　湘南日独協会理事） 取り上げる曲：Mozartの作品 Oboe協奏曲(K314)より第1楽章,　FluteとHarp協奏曲(K299)より第2楽章 Piano協奏曲第20番(K466)より第3楽章,　第40番交響曲, 歌曲 Exsultate jubilate(K165)から　など
8月	談話室SAS	当分の間中止いたします。
	読書会	3日（火）　15:00-17:00　　ミナパーク５０５　　会費：1,000円 17日（火）　15:00-17:00　　ミナパーク５０５　　会費：1,000円
	講演会	8月の例会はありません　　江ノ電第２ビル　7 階　湘南アカデミア　　会費 1,000円
9月	談話室SAS	当分の間中止いたします。
	読書会	7日（火）　15:00-17:00　　ミナパーク５０５　　会費：1,000円 21日（火）　15:00-17:00　　ミナパーク５０５　　会費：1,000円
	役員会	２６日（日）12：30- 14:00　江ノ電第2ビル　7階　湘南アカデミア
	講演会	２６日（日）14:30- 16:30　江ノ電第２ビル　7 階　湘南アカデミア　　会費 1,000円 演題：「ドイツ連邦共和国憲法と日本国憲法の比較」 講師：Dr.ハインリッヒ・メンクハウス　明治大学法学部教授 概要：1946年11月３日交付され、1947年5月３日施行された我が国の憲法は、戦後常に論議されながら、いまだ、なお解決されていない政治、社会上の大きな問題です。外国の憲法、就中，ともに敗戦国であったドイツ連邦共和国憲法と比較することは、我が国の憲法を改めて考える上で必要ではないでしょうか。 講演は、日本語で行われます。 懇親会：有り
	見て聴いて楽しむ音楽史（第3回）	2日（木）14:30~16:30江ノ電第２ビル７階 湘南アカデミア(予定)　　会費1,000円 演題：Bachの音楽 何が凄いのか？[その1] 講師：高橋善彦氏　（会員　湘南日独協会理事） 取り上げる曲：J.S.Bachの作品　（予定） Toccata und Fuge d-Moll "Dorian" BWV 538,　Toccata und Fuge d-Moll BWV 565 Brandenburg協奏曲 第5番 BWV 1050 Kantate Nr.78 Jesu, der du meine Seele (BWV 78)　抜粋 Kantate Nr.51 Jauchzet Gott in allen Landen (BWV 51)　抜粋 ロ短調ミサ　h-Moll-Messe, BWV 232　抜粋

◎例会参加希望者の皆さんへ：コロナ関連の注意事項

・場合により参加者の人数制限を行うことがあり得ます。希望者は、早めにお申し込みください。
・来場の際はマスク着用をお願いします。
・懇親会は有ります。但し、当面、参加者は原則講師を含め6名、最大8名の人数制限があります。

◎当ページに掲載の各催しは諸般の事情により変更となる場合がありますので、最新の予定を当協会ホームページにてご確認下さい。URLはhttp://jdg-shonan.ciao.jp/#event
予定はスマホからもご覧いただけます